

ちょっとした不注意から



消防本部 予防課 68 0937

日本で起きている建物火災の約半分は、居住用建物で発生しています。さらに、火災での死者数では、居住用建物が約90%を占めています。

居住用建物での火災の原因は、放火などの犯罪を除けば、ほとんどが不注意によるものです。ちょっとした不注意が、あなたの財産や命を奪うことになるのです。

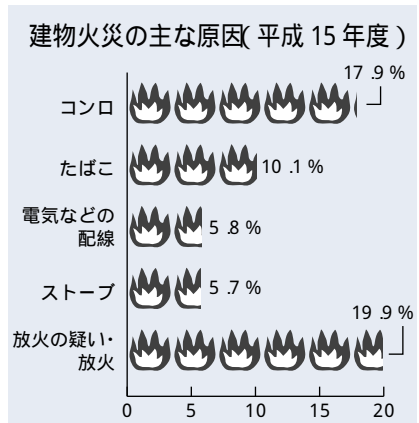
原因 コンロでの不注意

揚げ物をしていて、ちよつとそばを離れたら油に火が

油は、約360 で自然発火します。油の量にもよりますが、コンロで1分加熱すると約200、14分で約360 に達します。調理中、コンロから離れるときは、必ず火を消しましょう。

コンロの近くの壁が燃え出した

コンロと可燃物（柱、壁、棚など）の間が十分に離れていないと、コンロからの長年の伝熱により可燃物が炭化し、発火する恐れがあります。コンロを設置するときは、可燃物から離して設置しましょう。



原因 電気での不注意

家具の下敷きになっている電気コードから火が

電気コードがカーペットや家具の下敷きになることで、コードに熱が蓄積され加熱したり、線が切れてショートし発火する恐れがあります。コードを物の下敷きにならないようにしましう。

プラグから火が出た

プラグ周辺にほこりが貯まるとショートしやすくなります。コンセントやプラグのまわりを清潔にしましょう。

たこ足配線をしていてプラグから火が出た

電気の許容量を越えた配線をするると焼損する恐れがあり、火

原因 タバコの不注意

寝タバコをして火ダネが布団へ

布団の綿の中に火が入ると、なかなか消えませんが、「寝タバコをしない」ことは当然ですが、もし、布団に火がついたら、布団全体を水に浸して消火してください。それでも再び燃え出すこともありますので、その後も注意してください。

吸い殻をゴミ箱に捨てたら火がついた

タバコを消したと思っても、吸い殻の中で火がくすぶっている場合があります。その吸い殻をゴミ箱へ捨てることは、「火事になれ」といつているようなもの。タバコの吸い殻は必ず灰皿に捨て、水をかけるなど完全に消火してから処分しましょう。

今、ここに挙げた例を見て、ドキツとした方はいませんか？ちょっとした不注意が大きな火災につながります。一人ひとりが防火に意識をもち、火災を防ぐよう心がけましょう。